

滋賀県東浅井郡浅井町三田方言における 身体感覚を表すオノマトペ

江端義夫

はじめに

1. 調査対象地；浅井町（あざいちょう）は、滋賀県の北東に位置する。町の北部には、1, 314 m の金糞岳があり、鳥越峠を介して岐阜県の坂内村と接している。東は伊吹町、南は姉川を挟んで長浜市と、西は北陸本線虎姫駅のある虎姫町と接している。生業は米作を中心とした、第3種兼業農家が多い。就業別人口の比率は、第1次：第2次：第3次 = 15：47：38である。交通は、古来より開け、中仙道の宿場町の「関ヶ原」と北陸街道の宿場町の「木之本」とを結ぶ脇往還の要地として、人の往来が著しかった。平成元年2月末現在の住民基本台帳による人口は、12, 496人である。
2. 調査年月日；1991（平成3）年10月22日
3. 話者；清水瑛伝 大正15年3月16日生、65歳
4. 調査者・調査場所；江端義夫・浅井町役場応接室
5. 調査方法・調査時の様子；『方言資料叢刊』第2巻用調査票に準拠した質問調査
（注）話者の説明は、〈 〉で表示している。

I 全身の感覚

1-1 快不快

さっぱり スーット〈多〉、サッパリ〈少〉

○汗をかいたが、風呂に入って～した。

1-2 寒さ

がたがた ブルブル

○寒くて寒くて～震える。

ふるふる ブルブル

○寒くて寒くて～震える。

ぞくぞく ゾグゾク

○風邪でもひいたのかな。～する。

すうすう ゾワット

○風邪をひいたみたいだ。背中が～する。

1-3 熱さ

ぼかぼか ホ^ワホカ

○酒を飲んだら身体が暖まって～してきた。

かっか 方^ツカ

○卵酒を飲んだら身体が～してきた。

II 皮膚の感覚

ひりひり ヒ^リヒリ

○海水浴で日焼けして背中が～する。

べたべた ベ^下ベト〈多〉、ベ^歹ベタ〈少〉

○今日は暑い。汗で背中が～する。

むずむず シ^歹シク〈何かが刺して痛い時〉

○背中に何か入って～する。

もぞもぞ モ^歹モゾ〈蚤など〉

○背中に何か入って～する。

かさかさ カ^歹カサ

○空気が乾燥していて、肌が～する。

がさがさ ガ^歹ガサ〈油気がなく、赤ぎれなどのできたときに言う〉、ザ^歹ザラ〈油気がなく、程度が著しいときに言う。〉

○空気が乾燥していて、肌が～する。

すべすべ ヌ^歹ヌル〈多〉、ヌ^歹ヌベ〈少〉

○温泉に浸かって肌が～する。

つるつる ツ^歹ツル〈顕著な度合を示す。〉

○温泉に浸かって肌が～する。

ずきずき ズ^歹ズキ、ズ^歹キンズキン〈程度の著しいとき〉

○ころんで強く打ったところが～する。

ずきずき ズ^歹キンズキン

○ころんで強く打ったところが～する。

ひりひり ヒ^歹リヒリ

○擦り傷が～痛い。

ひりひり ヒ^歹リヒリ

○やけどしたところが～する。

ずきんずきん ズ^歹キズキ

○できものが腫れてきた。～する。

ぼとぼと ズ^歹キズキ

○できものが膿んできた。～する。

* ヒリヒリ

○しもやけがひどくなって～する。

III 頭部の感覚

3-1 頭

がんがん ズキズキ〈多〉、キリキリ〈少〉

○熱があつて頭の奥が～する。

くらくら クラクラ

○熱で頭が～する。

ずきずき ズキズキン、アコ^ーナッテキタ〈多〉

○二日酔いで頭が～する。ズキズキン ずきんずきん 二日酔いで頭が～する。

3-2 顔面

かっか ホテッテキタ〈多〉、カッカ

○恥ずかしくて顔が～する。

ぼっと 調査漏れ

3-3 目

ちかちか ショボショボ〈多〉

○テレビを見すぎて、目が～する。〈但し、チカチカスルは色彩の鮮やかさに刺激された時の言い方であり、目が疲れたときの言い方ではない。又ガ クランデキタとかも言う。〉

しょぼしょぼ シワシク〈目がかゆい感じ〉、シュワシュク〈小枝をくべていて煙が目に入ったときの感じ〉

○煙くて目が～する。

ごろごろ チクチク〈刺すような感じの時〉

○目にゴミが入って、～する。

3-4 耳

きーん ガンガン〈騒音に対して〉

○あうるさい。耳がまだ～とする。〈ガンガンスルとはいうが、ガンガントスルとは言わない。〉

じーん ジーン〈病的なうっとおしい感じの時に使う〉

○あうるさい。耳がまだ～とする。〈耳鳴りの時には、ワーントスルという。〉

じくじく ジワシク、ジュワジュク〈状況を表すが、痛みを表す語ではない。〉

○耳の中が腫れて汁が出ているようだ。～する。〈耳から出る膿汁のことをタワシルとかタワシとかという。これは切り傷の後の黄色い汁についても使われる。話者はジュワジュクスルの語源を「熟柿」(じゅくし)に由来すると説明した。〉

3-5 鼻

むずむず ムズムズ<コソバユイ感じ>、モゾモゾ

○くしゃみが出そうで、鼻が～する。

ぐじゅぐじゅ グジュグジュ

○風邪をひいたようだ。鼻が～する。

つーん ツーン

○わさびを入れすぎて、鼻が～とする。(ハチニ ツーントキタという言い方が慣用のようである。「する」よりも「くる」と結びつき易い。)

3-6 口

(口全体)

ねちゃねちゃ ネチャネチャ、ネバネバ

○納豆は嫌いだ。口が～する。

* アー スー。

○梅干しを丸ごと食べると、口が～する。

* アー アマエー ナー。

○あんまり甘いものを食べたから口が～する。

(歯)

がちがち ガクガク<寒さの著しいとき>

○寒かった。歯が～鳴っている。

かちかち カチカチ<寒さを表すとき以外にも、緊張感を表すときにも、これを使う。>

○寒かった。歯が～鳴っている。

ずきずき ズキズキ、ズキンズキン<これは前者のズキズキよりも程度が著しいことを表す。>

○虫歯がひどくなって、歯が～する。

ちくちく シクシク<軽い痛みを表す。>

○虫歯がひどくなって、歯が～する。

(舌)

ひりひり シクシク<カレーライスの辛味を表すときなど>、ピリピリ<とうがらしの辛味を表すときなど>

○辛いカレーを食べたら舌が～する。

びりびり ヒリヒリ

○辛いカレーを食べたら舌が～する。(ヒリヒリスルをピリピリスルとは言わない。)

3-7 喉

からから カラカラ

○水をくれ。喉が～だ。

いがいが 該当語なし。〈筍はエゴイという。しかし、筍の味をイガイガスルをは言わない。〉

いがいが イガラコイ

○この部屋は空気が悪い。喉が～。〈イガイガスルとはならない。形容詞のイガラコイ（喉がこそばゆい感じ）で文を結ぶ。〉

ぜえぜえ ゼーゼー

○息が苦しい。～いつている。

ひゅうひゅう 該当語なし。〈ゼーゼーで一括する。〉

IV 胸体の感覚

4-1 肩

こりこり コリコリ

○肩が凝って～する。

4-2 胸

ドキドキ ドクドク

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

ドキドキ 該当語なし

どきんどきん 該当語なし。

とくんとくん 該当語なし

とっくんとっくん 該当語なし

きゅっと キュット

○悲しくて悲しくて胸が～しめつけられる。

むかむか ム万ムカ

○悪いものを食べたようで、胸が～する。

4-3 腹

（空腹）

ぐうぐう グーグー

○お腹がすいて～いう。

きゆるきゆる 該当語なし

（満腹）

たぶたぶ タブタブ

○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ちゃぼちゃぼ 該当語なし

ちゃぶちゃぶ 該当語なし

ばんばん 下ーントシタ

○食べ過ぎた。腹が～。 (「腹が～だ」のような文脈にならない。) (身動きができない感じで、満腹の様子)

(腹下し)

ごろごろ グジート イタイ

○何か変なものを食べたようだ。腹が～。 (どことなく気だるい感じを伴う。)

ぐるぐる 該当語なし

びーびー 該当語なし (下痢自身のことをピーピーとは言いが、腹下しの状態をピーピーとは言わない。)

4-4 胃

しくしく ジワジク (軽い痛み)、キリキリ (強い痛み)

○困ったことが多くて (ストレスがたまって)、胃が～痛む。 (胃痙攣のことをシャッキという。)

じくじく ジワジク

○困ったことが多くて、胃が～痛む。

きりきり キリキリ

○困ったことが多くて、胃が～痛む。

4-5 尻

むずむず モゾモゾ (多)

○尻心地が悪い。尻が～する。

もぞもぞ ムズムズ (少) (鈍い動作)

○尻心地が悪い。尻が～する。

V 手足の感覚

(手)

ふるふる ブルブル

○手が～震えて、箸が握めない。

(足)

がくがく 該当語なし

○歩きすぎて、足が～する。 (但し、膝が「刃クガクスル」とは言う。しかし、足は「ボーンナッタ」と言う。)

(その他)

ぬるぬる ヌベヌベ (古色)、ネチャネチャ

○気持ち悪い。～したものが足(手)にあたった。

ぬらっ(と) ヌルヌル、ニユルニユル (古色)、フニャフニャ

○気持ち悪い。～したものが足(手)にあたった。

VI 関節（骨）の感覚

ごきごき グキグキ

○寝違えて首が～する。

ぐきぐき ポキント、ボキボキ

○寝違えて首が～する。（「ポキントスル」よりも「ボキントオレル」の使用が多い。）

ばきばき ポキント

○そんなに曲げると、骨が～（と）折れそうだ。

ほきほき ポキント、ベシット（小枝など）

○そんなに曲げると、骨が～（と）折れそうだ。（ベシットは人間の骨については使わないが、参考までに掲出する。）

VII その他

まとめ

1. 共通語と異なる特異な語形が見出され、注目される。風邪をひいたときに、背中が「ゾワット」する、恐ろしいときに、胸が「ドクドク」する、腹下しの状態を「グジント」痛いなどであるのは、特に興味ぶかい。
2. 共通語と同様の語形、および2回反復形式の相同性などが似ている。基本的にはこれらが語彙的に共通の基礎的共有性に立つと言ってよいのであろう。
3. 口全体の状態を表す語形が不完全であった。領域によっては、象徴詞の欠如が、必然的な事実を暗示している。
4. 舌の味の表現で、シクシクとピリピリとで材料の違いを表しているところがある。文脈の中での傾向が存することを暗示している。オノマトペの世界は奥が深いようである。

（えばたよしお 広島大学教育学部）